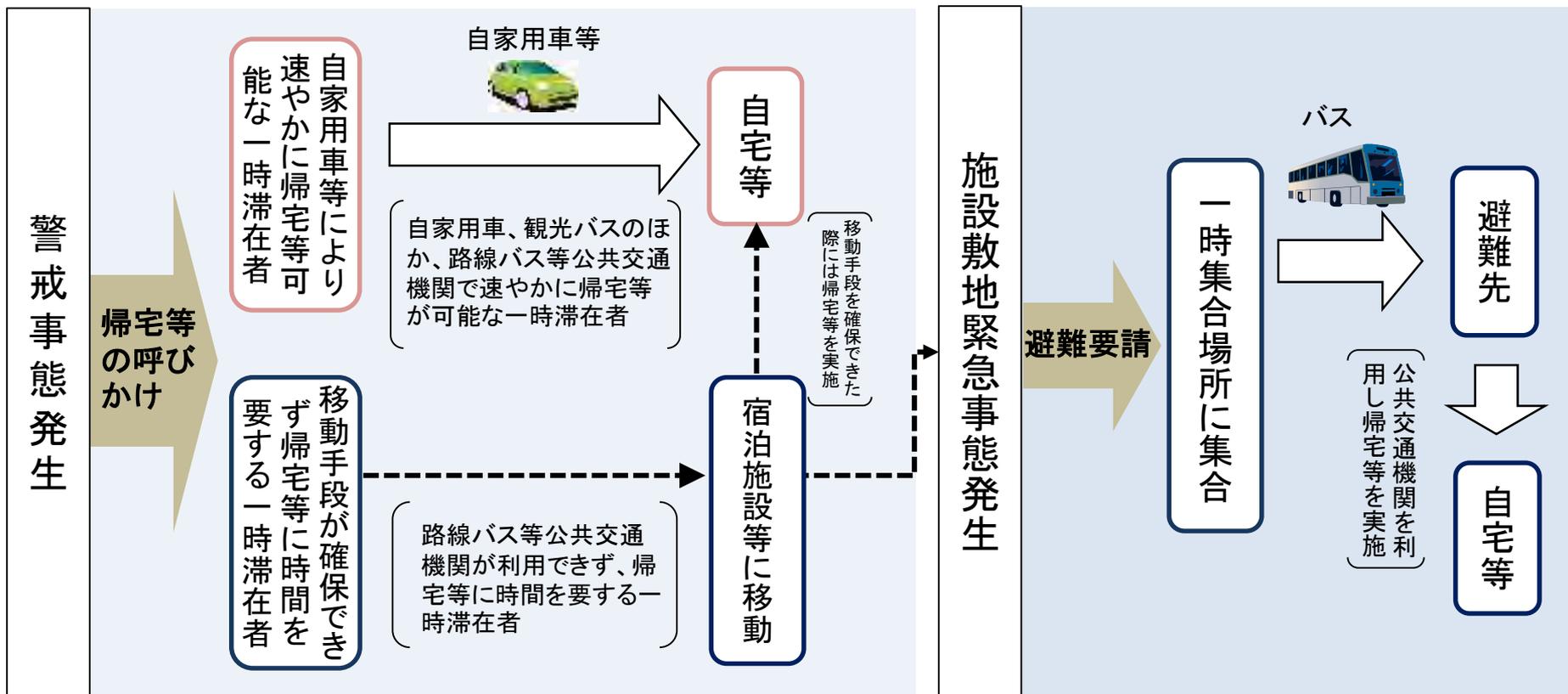


PAZ内の観光客等一時滞在者の避難等

- 関係府県及び関係市町は観光客等一時滞在者に対し、警戒事態において、帰宅等呼びかける。
- 自家用車等により速やかに帰宅等可能な一時滞在者は、警戒事態の段階で、自家用車等にて帰宅等を開始。
- 路線バス等公共交通機関も利用できない観光客など、帰宅等に時間を要する一時滞在者については、宿泊施設等に移動し、施設敷地緊急事態の段階で避難を実施。避難の際には、徒歩等により一時集合場所に集まり、福井県や関係市町が確保した車両により避難を実施。

<観光客等一時滞在者の避難の流れ>



PAZ内の観光客及び民間企業の従業員の数

➤ PAZ内の観光施設における日間入場見込み人数は約810人程度、民間企業(従業員30人以上)は9社(約513人)存在。※

※高浜発電所関連企業を除く

<PAZ内の観光施設の状況>

地区名		施設	入場見込人数(人)
福井県 高浜町	高浜地区	城山公園	260
	内浦地区	五色山公園	100
	青郷地区	青葉山ハーバルビレッジ	150
	計 510人		
京都府 舞鶴市	松尾地区	松尾寺	300
	計 300人		
			[合計] 810人

- ※1 福井県については入場ピーク時(8月)の入場者数を基に算定
- ※2 京都府については平成30年の年間実績を基に算定
- ※3 入場者の9割以上が自家用車を利用

<PAZ内の民間企業(従業員30名以上)の状況>

地区	民間企業	従業員数(人)
高浜地区	飲食料品小売業(3社)	111
	家具・装備品製造業(1社)	78
	医療業(1社)	137
	社会保険・社会福祉・介護事業(1社)	62
合計		388

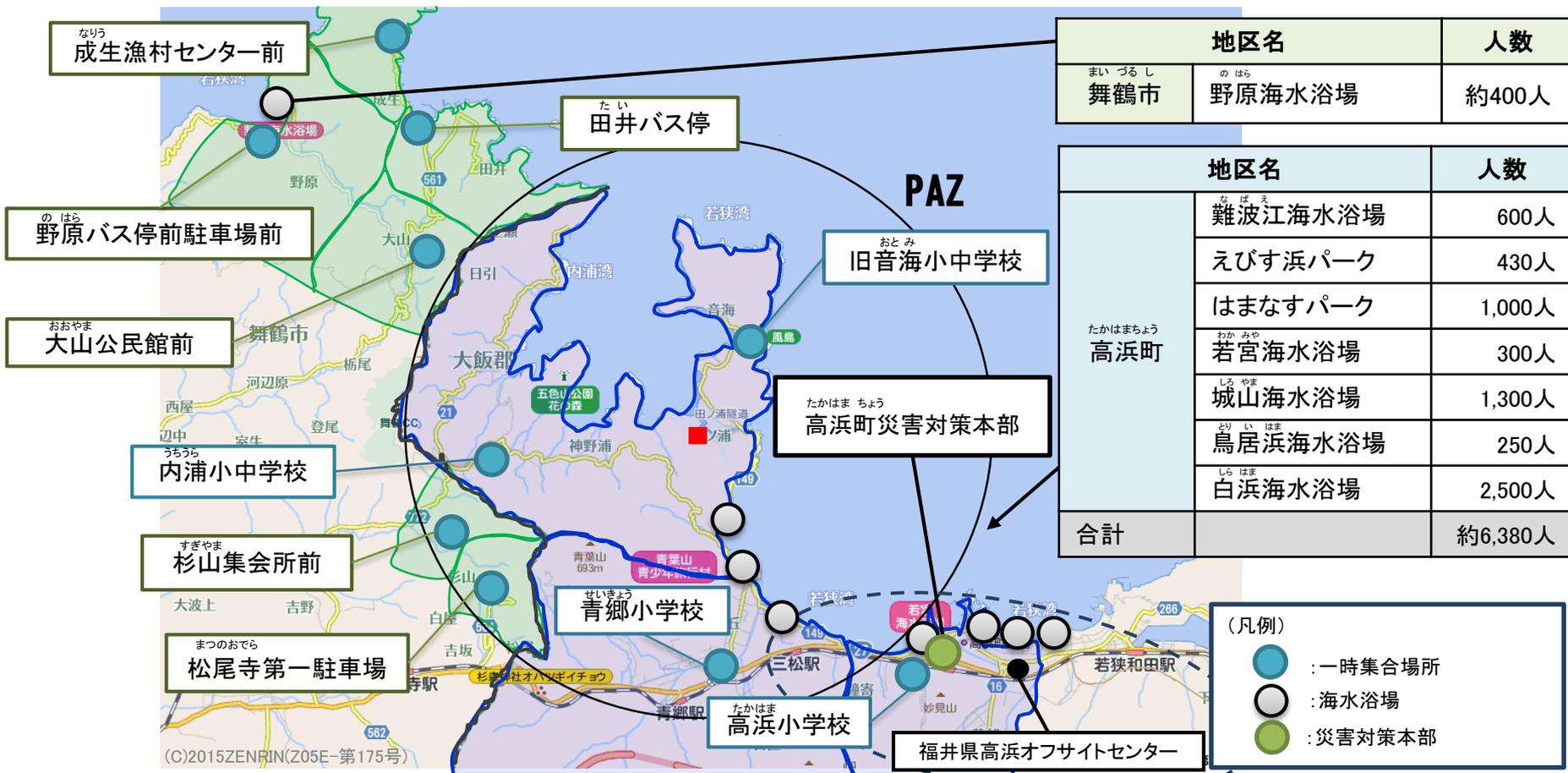
地区	民間企業	従業員数(人)
青郷地区	総合工事業(1社)	50
	家具・装備品製造業(2社)	75
合計		125

[合計] 9社 約513人

- ※ 民間企業の従業員については、通勤に使用する自家用車、バスで避難
- ※ 高浜町内浦地区及び舞鶴市には、発電所関連企業を除き、従業員30人以上の規模の事業所なし
- ※ 出典:平成28年経済センサス

PAZ内の海水浴場及び入場者の数

- 高浜町ではPAZ内に海水浴場が7か所あり、平成30年度シーズンの1日当たりの最大入込客数は約6,380人。
- 高浜町の海水浴客の交通手段は、対象となる海水浴場周辺の駐車場利用率によると全体の約9割が自家用車利用で、残りの1割が貸切バス及び公共交通機関を利用。(平成30年度観光客入込調査 高浜町)
- 舞鶴市ではPAZに準じた避難を行う地域に海水浴場が1か所あり、1日当たりの想定最大入込客数を約400人と想定。



- 高浜町において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数4,336人（うち支援者数639人を含む）について、バス92台、福祉車33台（ストレッチャー仕様6台、車椅子仕様27台）。

	想定対象人数	必要車両台数※1			備考
		バス※2	福祉車両※3 (ストレッチャー仕様)	福祉車両※3 (車椅子仕様)	
学校・保育所の児童等の避難	1,010人 (児童等865人 +職員145人)	23台 (児童等865人 +職員145人)	0台	0台	保護者への引き渡しによりその分必要車両台数は減少【資料P29】
医療機関・社会福祉施設入所者の避難	162人 (入所者数125人 +職員数37人)	4台 (入所者121人 +職員34人)	2台 (入所者2人 +職員2人)	1台 (入所者2人 +職員1人)	放射線防護対策が講じられた若狭高浜病院及び若狭高浜病院付属介護老人保健施設(103人(入所者78人+職員25人))については、自施設内の放射線防護区域に移動し、入所者等の避難に必要な体制が整うまで屋内退避を実施。【資料P30】
医療機関・社会福祉施設の入所者のうち、避難の実施により健康リスクが高まる者及びその支援者の避難※4	10人 (入所者数8人 +職員数2人)	0台 (入所者0人 +職員0人)	0台 (入所者0人 +職員0人)	4台 (入所者8人 +職員2人)	放射線防護対策が講じられた若狭高浜病院及び若狭高浜病院付属介護老人保健施設(125人(入所者80人+職員45人))については、自施設内の放射線防護区域に移動するため、車両は不要。放射線防護対策が講じられていない施設は、放射線防護施設に輸送。近距離のためピストン輸送(4往復)を想定【資料P31】
在宅の避難行動要支援者の避難	906人 (要支援者453人 +支援者453人)	21台 (要支援者453人 +支援者453人)	0台	0台	支援者の車両での避難によりその分必要車両台数は減少【資料P31】
在宅の避難行動要支援者のうち、避難の実施により健康リスクが高まる者及びその支援者を放射線防護施設に輸送※4	372人 (要支援者186人 +支援者186人)	0台	4台 (要支援者15人 +支援者15人)	22台 (要支援者171人 +支援者171人)	放射線防護施設に輸送 近距離のためピストン輸送(4往復)を想定【資料P31】
その他の施設敷地緊急事態要避難者等(妊婦・授乳婦・乳幼児・乳幼児の保護者等)を避難先施設に搬送	1,187人	27台	0台	0台	「乳幼児の保護者等」には乳幼児がいる世帯人数を計上
観光施設から避難する一時滞在者	51人 (510人×0.1)	2台	0台	0台	1日あたりの観光客510人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成30年度観光客入込調査高浜町』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P34】
海水浴場から避難する一時滞在者	638人 (6,380人×0.1)	15台	0台	0台	1日あたりの海水浴客6,380人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成30年度観光客入込調査高浜町』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P35】
合計	4,336人	92台	6台	27台	

※1 数字は現段階で高浜町が把握している暫定値

※2 バスは1台あたり45人程度の乗車を想定

※3 福祉車両(ストレッチャー仕様)は1台あたり1人、福祉車両(車椅子仕様)は1台あたり2人の避難行動要支援者を搬送することを想定

※4 「避難の実施により健康リスクが高まる者」は、安全に避難できる準備が整うまで、放射線防護施設内に屋内退避(放射線防護施設から避難する場合には、別途車両の確保が必要)36

- 施設敷地緊急事態発生時には、社会福祉施設、在宅の避難行動要支援者、教育機関の避難等のために、福井県嶺南地方のバス会社が保有する車両のほか、高浜町、おおい町、小浜市内の医療機関、社会福祉施設、社会福祉協議会や関西電力が配備する車両により、必要車両台数を確保。

		確保車両台数			備考
		バス	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
(A) 必要車両台数		92台	6台	27台	
(B) 確保車両台数		計92台	計6台	計27台	
確保先	<small>たか はま ちよう</small> ・高浜町 ・医療機関、社会福祉施設、社会福祉協議会(高浜町、おおい町、小浜市)	1台	3台	11台	保有車両台数 バス1台 福祉車両(ストレッチャー)17台 福祉車両(車椅子)22台
	バス会社(福井県嶺南地方)	82台	—	—	保有車両台数 バス 193台
	関西電力	9台	3台	16台	保有車両台数 バス10台 福祉車両(ストレッチャー、車椅兼用)21台 福祉車両(車椅子)11台

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、関係自治体の要請により実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)が必要に応じて支援を実施

舞鶴市において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力

- ▶ 舞鶴市において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数145人(うち支援者数9人を含む)について、バス5台、福祉車両7台(ストレッチャー仕様6台、車椅子仕様1台)。

	想定対象人数	必要車両台数※1			備考
		バス※2	福祉車両※3 (ストレッチャー仕様)	福祉車両※3 (車椅子仕様)	
学校・保育所の児童等の避難		該当施設なし			
病院・社会福祉施設の入所者の避難		該当施設なし			
在宅の避難行動要支援者の避難※4	35人 (要支援者27人 +支援者8人)	3台	6台	0台	・支援者の車両での避難によりその分必要車両台数は減少 ・必要に応じて放射線防護施設に輸送【資料P32】
避難の実施により健康リスクが高まる在宅の避難行動要支援者及びその支援者を放射線防護施設に輸送※5	2人 (要支援者1人 +支援者1人)	0台	0台	1台	・支援者の車両での避難によりその分必要車両台数は減少【資料P32】
その他の施設敷地緊急事態要避難者等(妊婦・授乳婦・乳幼児・乳幼児の保護者等)を避難先施設に搬送	38人	0台※6	0台	0台	「乳幼児の保護者等」には乳幼児がいる世帯人数を計上
観光施設から避難する一時滞在者	30人 (300人×0.1)	1台	0台	0台	1日当たりの観光客数300人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成30年度観光客入込調査舞鶴市』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P34】
海水浴場から避難する一時滞在者	40人 (400人×0.1)	1台	0台	0台	1日当たりの海水浴客400人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成30年度観光客入込調査舞鶴市』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P35】
合計	145人	5台	6台	1台	

※1 数字は現段階で舞鶴市が把握している暫定値

※2 バスは1台当たり45人程度の乗車を想定

※3 福祉車両(ストレッチャー仕様)は1台あたり1人、福祉車両(車椅子仕様)は1台あたり2人の避難行動要支援者を搬送することを想定

※4 バスについては、PAZ(松尾・杉山地区)に1台、PAZに準じた避難を行う地域(大山地区、田井地区、成生地区、野原地区)に2台を配車し、支援者の車両等で避難することが困難な在宅の避難行動要支援者及びその他の施設敷地緊急事態要避難者等(妊婦・授乳婦・乳幼児の保護者等)を搬送することを想定

※5 「避難の実施により健康リスクが高まる者」は、安全に避難できる準備が整うまで、放射線防護施設内に屋内退避

※6 自家用車で避難することが困難な者は、在宅の避難行動要支援者の避難に使用するバス3台に同乗することを想定

- 施設敷地緊急事態発生時には、在宅の避難行動要支援者の避難のために、舞鶴市が保有する車両のほか、まいづるし市内のバス会社等が保有する車両、まいづるし市内のタクシー事業者が保有する車両により、必要車両台数を確保。

		確保車両台数			備考
		バス	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
(A) 必要車両台数		5台	6台	1台	
(B) 確保車両台数		計5台	計6台	計1台	
確保 先	まいづるし 舞鶴市	3台	0台	1台	保有車両台数 バス3台 福祉車両(ストレッチャー、車椅子兼用)6台 福祉車両(車椅子)5台
	まいづるし 舞鶴市内のバス会社、 社会福祉施設	1台	0台	0台	バス会社等の保有車両台数 バス80台(乗合含む) タクシー92台 社会福祉施設の保有車両台数 福祉車両(ストレッチャー)30台 福祉車両(車椅子)42台
	関西電力	1台	6台	0台	保有車両台数 バス10台 福祉車両(ストレッチャー、車椅子兼用)21台 福祉車両(車椅子)11台

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、関係自治体の要請により実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)が必要に応じて支援を実施